

報道関係各位

一般社団法人 日本抗加齢医学会  
広報委員会事務局

## <ご案内とご参加のお願い>

### 2023年度第4回日本抗加齢医学会 WEBメディアセミナー

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

一般社団法人日本抗加齢医学会では、3月21日(木)に2023年度第4回WEBメディアセミナーを開催いたします。ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご参加のお申込みはオンラインにて、3月20日(水)までにお願い申し上げます。

敬具

#### 記

80歳、90歳代の循環器疾患(弁膜症、不整脈、心不全)患者が非常に増加しており、その他疾患も含め、以前より多くの高齢者が侵襲の大きい外科的治療を受けています。100歳以上の高齢者も益々増加している日本において、高齢者医療がどのような状況にあるのか、また、どういった課題があるのかについて、外科、循環器、歯科領域の専門家からご講演をいただきます。

◇ 日 時 : 2024年3月21日(木) 15:00~16:35

◇ 会 場 : WEB(Zoom ウェビナー)

◇ 参加費 : 無料/事前登録制

◇ 参加申込用 URL : <https://www.anti-aging.gr.jp/ci/seminar240321/>  
※お申込み後、Zoom ウェビナーの参加登録用 URL をご案内いたします  
※QRコードからもご登録が可能です



◇ 司 会 : 尾池 雄一 先生 (日本抗加齢医学会広報委員会委員長  
熊本大学大学院生命科学研究部分子遺伝学講座 教授)

Introduction 尾池 雄一 先生

(日本抗加齢医学会広報委員会委員長/熊本大学大学院生命科学研究部分子遺伝学講座 教授)

15:05~15:35 外科治療における高齢者医療の現状と課題について

森 正樹 先生 (東海大学副学長・医学部長)

15:35~16:05 循環器疾患領域における高齢者医療の現状と課題

岡村 誉之 先生 (山口大学大学院医学系研究科器官病態内科学 准教授)

16:05~16:35 口腔からはじめる認知症ケアの新戦略

松下 健二 先生 (国立長寿医療研究センター 口腔疾患研究部 部長)

#### ご参加にあたってのお願い

- 本セミナーは、Zoomウェビナーによるライブ配信となります。著作権は日本抗加齢医学会に帰属します。講義の録音・録画はご遠慮ください。
- 無断でのご利用、第三者の閲覧はお断りします。WEB配信における情報の取り扱いにご協力をお願い申し上げます。
- 情報を利用しての情報配信、記事化は講演者の承諾を得たうえでお願いいたします。

#### 演者へのご質問について

Q&A機能を使い、司会あてにお名前、ご所属先、質問事項をお知らせください。  
頂いた内容を司会より読み上げさせていただきます。多くのご質問をお待ちしています。

以上

## 講演1：外科治療における高齢者医療の現状と課題について



森 正樹 (もり まさき) 先生

東海大学副学長・医学部長

1980年九州大学医学部卒業、1986年九州大学医学系大学院(病理学)修了。1991年米国ハーバード大学留学。1998年九州大学生体防御医学研究所教授、2008年大阪大学大学院消化器外科教授、2018年九州大学大学院消化器・総合外科教授。2021年に東海大学医学部長就任、2022年より東海大学副学長。

外科治療は身体への侵襲が不可避であり、とりわけ癌治療では、手術による原疾患の根治性と術後 QOL の低下はトレードオフであることが少なくない。高齢者をはじめとした脆弱な患者では、脆弱性の評価、与えるべき侵襲度の立案、術後 QOL の評価は不可欠であり、加えて最近では、術前の介入療法による脆弱性の改善も一般化し、医療経済的にも効果を発揮しつつある。ただし、患者自身の意思決定が最重要であることは言うまでもなく、意思決定プロセスのための客観的データの蓄積が求められている。

## 講演2：循環器疾患領域における高齢者医療の現状と課題



岡村 誉之 (おかむら たかゆき) 先生

山口大学大学院 医学系研究科 器官病態内科学 准教授

1993年山口大学医学部卒業、1999年山口大学大学院医学研究科修了。2008年より山口大学医学部附属病院 第2内科、2022年准教授。専門は循環器内科全般ならびに冠動脈や弁膜症などのカテーテル治療。欧州に留学経験があり、カテーテル治療や画像診断などを学ぶ。新しい治療法や画像診断技術に関する研究を行っている。

山口県は2021年時点で高齢化率が全国平均を上回る約31%となっており、全国に先駆けて高齢化が進んでいる。高齢者の多くが複数の慢性疾患を抱え、治療が複雑である。高度な専門的医療を行うと同時に、高齢者特有の健康リスクや生活状況を考慮した包括的で全人的な医療アプローチが求められる。医療リソースが不足しており、地域との連携や医療従事者の教育が強化される必要がある。将来的な高齢者医療に備えるために、循環器疾患に特有の課題に焦点を当てた総合的な対策が求められている。

## 講演3：口腔からはじめる認知症ケアの新戦略



松下 健二 (まつした けんじ) 先生

国立長寿医療研究センター 口腔疾患研究部 部長

1989年鹿児島大学歯学部卒。鹿児島大学大学院医歯学総合研究科にて博士(歯学)号取得。2002年米国ジョーンズ・ホプキンス大学医学部循環器内科研究員、2005年より国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・口腔疾患研究部部長。口腔感染症および口腔機能低下と老年病との関連について研究を進め、健やかに老いるための口腔の健康増進法の開発・普及を精力的に行っている。著書：松下健二 人生が変わる歯の磨きかた(河出書房新社)他

口腔は食や感染の入り口であり、口腔機能の低下や口腔内の感染症は全身の重大疾患や老化に影響を及ぼす。咀嚼機能や嚥下機能の低下は脳の老化や認知機能低下に関連する。また、一部の口腔細菌はアルツハイマー病の病態形成に関与する可能性がある。本セミナーでは、認知症の抜本的治療法が存在しない現在、口腔の健康維持が脳の老化や認知症を予防する得策になり得ることを解説する。